

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)/(1)(2))

| | | | |
|---------|-----------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2793200227 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 弘道福祉会 | | |
| 事業所名 | 守口金田グループホームラガール | | |
| 所在地 | 大阪府守口市金田町4-5-16 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年11月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年2月1日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階 |
| 訪問調査日 | 令和3年12月21日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

複合施設の中にある特徴を生かし多職種との連携が強みです。例えば医療に関しては、往診医、協力病院との連携のほか、日常生活の些細な変化も施設内の看護師や管理栄養士など相談できる環境です。また、普段の少人数の家庭的な暮らしの中にも刺激を受けていただけるように、家族との外出支援(現在、コロナ感染予防から中止)や施設全体の行事(現在、コロナ感染予防から各ユニットの少人数で対応)参加など行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目の事業所と同じ建物内に地域密着型特養、看護小規模多機能、デイサービス、ショートステイ、訪問介護、居宅介護支援の事業所があり、一体的に強く連携しあって運営されている。法人は事業所ごとに交代で実践研究発表会(学術発表会)を行うなど研修に力を入れ、その結果職員の大半は介護福祉士や認知症実践者講習受講者などの有資格者で定着もよく、認知症ケアにより影響をもたらしている。母体は地域に根差した病院で、利用者、家族、職員に安心を与えている。コロナ禍で外出できない困難な状況下であるが、建物の屋上は広い庭園となっており、外気浴、野菜栽培、ガーデンパーティーに活用されている。建物内も広く開放的で切り絵やペーパークラフトなど季節の作品で飾られた壁も美しく楽しい雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | スタッフステーションの目の付くところへ掲示し、理念を実践できるようにしている。また、各自スタッフから事業所目標を提案してもらいスタッフ会議で決定している。年に2度、自己評価を行い、面談後、個人目標を作成している。 | 法人理念「安心・信頼・貢献できる施設」と基本方針3項目を掲げていて、パンフレットにも書かれている。開設3年目からは職員皆で4月に今年度の目標を決めて、事務所内に掲示している。本年度は①利用者様に寄り添う介護②皆で協力し連携をとる。という内容で年2回の個別目標を設定する際の面談時にこの目標や理念についても確認している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に入会し、今後は祭りや運動会などの地域の催しに参加する予定だったが、コロナ感染予防から外部との接触を極力避けているため、今年度の活動はできなかった。 | 以前の調査で課題となった自治会にも加入し地域活動により積極的に参加したかったが、コロナ禍でできなくなっている。外部の人と触れ合うのは月1回の訪問理美容の時や、看護学校の実習生、家族と通院する時くらいである。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 2の理由から実施していない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ感染予防から運営推進会議が出来ないでいる。 | 以前は地域包括支援センター、民生委員、町会役員などが参加し地域密着サービス(特養、看護小規模多機能、グループホーム)合同で開催していたが、2019年3月より法人の方針で中止となっている。 | 平成30年の介護保険制度改正により、合同開催は年6回のうち半数までとなっているので、法人との検討をお願いし、制度に合致する方法を検討する等、見直しをされることを望む。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 守口市グループホーム連絡会に入会しており、2カ月おきの会議で各事業所の活動報告と事例検討も行っていたが、コロナ感染予防から会議で集まることが出来なくなり、オンライン会議やLINEで情報を共有している。 | くすのき広域連合とは介護保険手続きで良好な関係を保っている。守口市グループホーム連絡会は地域包括支援センター主催で市役所内で2カ月おきに会議が開催され、当事業所も出席している。市と連携して今までの介護フェアの代わりに写真展を開催した。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3か月に1回(4月・7月・10月・1月)抑制・身体拘束防止委員会を実施。事例検討の他、身体拘束を行わない介護やスピーチロックについても学び、正しく理解できるように努めている。また、緊急な事案については、週に1回の運営会議で臨時委員会を開催し、施設全体で取り組んでいる。ユニット間の扉の開放やスタッフステーションには施錠をせず、スタッフの見守りで対応している。 | 身体拘束防止に関する指針、身体拘束適正化委員会記録も整っている。研修会は全体で集まることを避け資料を配布し各自学習する方法をとっている。今までフロア間は自由に往来ができていたが、利用者のセクハラ行為対策のためやむを得ず閉めているが、屋上庭園の利用などで閉塞感やストレスのないように努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 抑制・身体拘束防止委員会にて事例検討を行い、虐待について考える機会を作っている。また、利用者の心身機能については、普段より、皮膚チェックや痛みの訴えなどあれば、申し送りノートに記載する事や事故報告書を提出し原因と予防策を検討している。その事が虐待予防に繋がっている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 成年後見人制度を利用されている方が、実際におられる。また、今後必要になるケースもあることを踏まえ、成年後見人などの制度についてスタッフに自己学習を勧めた。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に関する説明時はわかりやすい言葉と文章について説明を行い、納得された上で同意を得て行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族からの直接的意見やスタッフからの報告などで知り得た内容は、週に1回の運営会議で報告し検討している。 | 家族へは2か月に1回、利用者の写真とともに体重、食事量その他QOLに関する詳しい情報を担当職員から送っている。家族の要望意見は申し送りやノートでグループホーム内で共有し、ケアセンター全体の役職者が参加する運営会議で検討している。家族の希望で利用者の様子をライン動画で送ることもある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営会議の議事録や各種委員会の会議後は、申し送りで報告後、議事録をスタッフに回覧している。 | 法人全体の褥瘡予防、身体拘束、感染対策委員会などにグループホームからも職員が交代で委員として参加している。グループホーム内部の委員会では、物品発注や行事、壁の装飾などを分担している。ユニットごとの会議は個人目標管理を兼ねて6か月に1回開催し、そのほかは運営会議にあげる意見などを個々に書面で聞き取っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の個別の事情に考慮し勤務内容を考慮している。また、希望に応じて施設内外の勤務場所の変更や法人内での移動なども提案している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | スキルアップ研修等については、法人全体で応援しており、介護福祉士に合格すれば、修得手当の一時金がある。また、習得の為の勤務時間等を配慮するなど行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 守口市グループホーム連絡会の活動が中止しているため今年度のグループホームの同業者との交流はできなかったが、当ホームは複合施設の為、施設全体の委員会や行事などで意見交換する機会があった。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の前では言えない困りごとなどが多い認知症の方の家族と、また本人への配慮のため、面談では本人同席と同席なしの2回行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族からの情報を聞きとる際は、課題を把握できるように、話題を変えたり話しやすい雰囲気作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の今までの暮らしを尊重できるような支援方法を提案する事。また、急激に変更せず、本人の状態を把握し、本人の理解度を見極めながら施設の暮らしになじんで頂くようにしている。例えば、携帯電話など本人が必要なくなるまで持って頂くことや就寝時間なども本人のペースにあわせている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 以前の暮らしや本人の特技、苦労話などを聴き取り本人の理解を深めながらその関係性を築いている。例えば、働いているつもりの利用者には、一緒に掃除を行ったり、洗濯物をたたむなど同じ作業を通じて関係性を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族が行える家族支援を提案し、両者にとって大切な絆を継続できるように支援を行っている。オンライン面会が利用できない高齢の家族には、施設に来てもらい職員が付き添い行うなど積極的に勧めたり、面会できない時期には、本人の嗜好品など持参してもらい利用者に家族の思いを受けてもらうように図らった。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ感染予防からオンライン面会を実施している。11月より、直接面会を実施。1回15分で2名まで。コロナワクチン接種修了書か陰性証明書を持参してもらうなど条件付きで行っている。 | 馴染みの人との面会は最近15分間2名まで、別室でという制限下で再開された。外出はまだできないので、以前からの馴染みの生活を継続する目的で書道や縫物、パズルなどの好きなこと、得意なことができるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | スタッフが間に入り、気の合うもの同士が交流できるように支援を行っている。また、孤立しないように普段から配慮している。ユニット①と②の間の扉を解放し自由に行き来が出来るようにしている。体操やレクリエーションの提供も合同で行っているため、利用者間の交流は盛んである。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設への転居には、事前に情報提供を行い、主治医からの診療情報書、服薬が途切れないように処方を調整してもらうなどの支援を行っている。今まで有料老人ホームへの入居や同施設内の看護多機能、特別養護老人ホームなどの転所などもあるが、その後も、家族からの相談に応じることは数回ある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメントは、実際に携わった職員も一緒に評価し、そこからニーズを引き出し、介護プランに反映している。 | 利用者が何気なく呟いた言葉や思いがけない行動を「気づき」として注目し朝夕の申し送り時に共有している。困りごとばかりではなくプラスの面をみてよい方向に発展するような支援を心がけている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前と、入居後にも本人、家族からの聴き取り等で、知りえた情報を職員で共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人らしい過ごし方ができるように毎日のバイタルサインチェック、食事量、排泄、睡眠時間等を記録し、その日の心身状態を把握するように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意向の聴き取り、職員や専門職からの意見、主治医からの掲示等含めた内容を反映しプランを作成している。 | サービス担当者会議は担当職員、ドクター、看護師に書面で照会し開催している。作成した計画書の変更点などは付箋をつけてわかりやすいように工夫して職員に渡している。家族へは以前は直接プランを見ながら話しあっていたが、今は電話で説明してから郵送している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 「気づき」は朝・夕の申し送り時間を利用し、職員間で共有している。また、「気づき」の内容は困りごとばかりにならないように、楽しいエピソードや意外な特技などもその場で報告し、スタッフで周知している。そのことをプランの見直しに活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 認知症特有の「ごはん食べてません」「お風呂入っていません」などの訴えには、それぞれの利用者に応じた同じ対応を心がけ、本人の意向を尊重できるように、入浴、食事、就寝時間など柔軟に対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域ボランティアの来訪や、地域の催しものに参加していたが、現在コロナ感染予防から受診以外の外出はできない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の往診以外にも専門外来の受診への支援や、専門医、薬剤師とも連携できるように本人の状態を適切に伝えている。 | 今までのかかりつけ医(整形外科、神経内科、歯科等)には家族や職員が同行して受診している。協力医療機関からは内科(月2回)、歯科(歯科衛生士同行のもと月1回)の往診があり全員が受診している。看護師が週2回訪問して利用者の薬の管理、排便コントロール、巻き爪等健康管理を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に2回、看護師が勤務しており、療養管理の相談やスタッフの指導を行っている。また、不在時の特変時は同施設内の看護師に報告し適切な指示を受けている。また、医師の指示により、訪問看護を利用する場合など速やかに情報提供を行い、連携に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時は、その病院の地域連携の職員と連絡を取り合い、情報交換等を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 今まで、3名の利用者の看取り介護の経験を通じて、看取り介護の細かい取り決めなどを都度検討改善を行っている。 | 入所時に「重度化した場合における対応に係る指針」を示して説明を行い同意を得ている。状態の変化により医師から終末期と告げられた時点で「重度化した場合における(看取り)指針」で再度家族に説明して同意を得ている。マニュアルのもと看護師による看取り研修が全員参加で行われている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応マニュアルと手順を張り出している。また、AED操作訓練を毎年実施していたが、今年はコロナ感染予防からは中止になっている。新入職者には、オリエンテーションで操作方法を伝えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的な防災訓練を行っている。 | コロナ禍の中で、法定の年2回の災害訓練は消防署立ち合いは無く、ZOOMでの座学研修、避難通路の確認に留まっている。法人は近隣の避難場所となっており自家発電装置の設定、水の大タンク、食料品を揃えて法人の併設施設(病院、複合型施設)との協力体制が整っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 自尊心を傷つけないような介助方法や接し方を職員と話し合い、アイコンタクトや傾聴など介護技術を具体的に学んでいる。男性利用者の失禁時の対応などは、自尊心を傷つけないように、声掛けに注意している。たとえば、失禁の確認には、肌着の更衣などで確認したり、リハビリパンツにパットをつけた状態で置いておくなどは抵抗感を感じない工夫をしている。 | 法人研修計画のもとに接遇マナーやプライバシー保護研修に参加している。言葉遣いや挨拶、利用者に対する態度を学び利用者の呼び方は全て「さん」呼び、個別な対応では羞恥心に配慮した対応の仕方がなされている。時に強い言葉があった時点で管理者や周りのスタッフが配慮している。重要書類はスタッフルームの鍵付きの書庫に保管されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いはどうなのかを職員がそれぞれ感じたことを話し合い、日々の生活に取り込んでいる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のその時の体調や気分に合わせて、入浴や洗濯、掃除などは週単位で考えて提供している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | それぞれのこだわりを尊重し、その服装や髪形を維持できるように支援を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | コロナ感染予防からテーブルは一方向に向けているが、その中でも交流できる配置を考えている。 | 法人の施設で一括して管理された食事が事業所1階の厨房で調理され配達されてくる。事業所ではご飯とお味噌汁を手作りしている。年2回のお弁当日には屋上でピクニック風にして楽しんでいたがコロナ禍の中で中止。行事食やイベント食、おやつレクレーション(月1回)を行いケーキ・たこ焼き・ところてん等を食して楽しんでいる。利用者は下膳や食器洗い等に参加している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎月の体重測定、毎日の食事量、水分量など記録し、本人の状態を確認している。また、管理栄養士や看護師と協議し食事内容、形態など変更している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 訪問歯科の指導を受け、口腔ケアを実施している。また、訪問歯科の医師や看護師からも綺麗にできていると言われ、スタッフも口腔ケアを重視している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | それぞれの排泄パターンを把握し、トイレ誘導時間やポータブルトイレの使用など個々に合った排泄介助方法を検討している。 | 重度者の排泄は基本2人介助としてトイレでの立ったり座ったりを生活リハビリの一環としてトイレで座ってもらうことを重視している。便秘にはお腹をマッサージしたり、水分を工夫したり細やかに配慮している。夜間は居室にトイレが設置されており、2時間ごとの見回りだがリハビリパンツにパット、おむつ等を併用して安眠重視としている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | バランスの取れた食事や乳製品の提供と、1日2回の体操で自然排便を促している。また、看護師の指導により、スタッフ一人一人が腸蠕動音を聴き取り、過剰な下剤服用にならないようにしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 水分摂取 | 入浴は複合施設の強みで、1階の準天然温泉の風呂も使用できる。(この風呂は車いすのままでもスロープを使ってそのまま入れる)、3階のお世話浴(重度の方が寝たまま入れる)、事業所内の個浴があり、介護度や利用者の希望で選択できるようになっている。お楽しみ風呂として毎月リンゴ、甘夏、グレープフルーツを湯船に浮かべてフルーツやお花で季節を楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活習慣や、その日の体調に応じて、休息や就寝時間をとれるように支援をしている。また、日中は体操などを取り入れ良眠ができるように心がけている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとりの薬の情報を職員が把握しており、体調変化があった場合は看護師や主治医に報告し、指示を受けている。また、定期的に薬剤師の訪問にて服薬の相談や指導を受けている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴を聴き取り、今現在継続できる好きな事をそれぞれ提案するなどしてやりがいをみつけるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族と一緒に通院や外出をしやすくするよう送迎や準備など支援している。 | コロナ禍以前は地域コミュニティ祭り、法人全体が合同で実施する花見や初詣等や、車で外出を様々な行事を行い楽しんでしたがすべてが、現在は中止となっている。現状は屋上が広くテーブルや椅子が設置され、菜園の水やりや季節の野菜の収穫(トマト、パプリカ、落花生等)を行い職員共々が外気に当たり気分転換や日光浴を楽しんでいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を所持していることで安心される方には、家族と相談し少額のお金を個人で管理して貰っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望あれば電話や手紙を書く支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | それぞれの特徴を生かした席の配置や、季節に応じた飾りつけなど居心地よく過ごせるようにしている。 | 複合施設のメリットから共用空間は広くゆったりとした配置となっている。おやつレクレーションが屋上庭園で行われたり、隣のユニットとはイベント等で交流している。3人掛けのソファでは仲良しの利用者が洗濯物をたたみながら談笑をし、利用者が思い思いのスタイルで居心地よく過ごせる工夫がみられた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂のテーブル以外にもソファを設置。また居室の前も長椅子があり、利用者同士交流できるスペースを設けている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人や家族から希望される馴染みの物を配置し、本人が過ごしやすい安全な居室作りを心掛けている。 | 居室は16㎡と広く、表札に工夫(写真・塗り絵)があり、ベッド、洗面台、トイレ、クローゼット、防災カーテン、エアコン、壁面ラックが設置されており、利用者は、仏壇、テーブル、テレビ、家族写真等思い思いの品を持ち込み、居心地よく過ごせる工夫がみられた。コロナ禍の中で換気に気を配り、換気扇が終日作動している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している | トイレの場所がわからない方にはトイレの張り紙や、1日のスケジュールなど張り出し自立した生活を送れるように支援している。 | | |